

第6回発起人会 議事録

日時：2012年10月12日（金）19:00～21:00

場所：商工会議所2階 役員室

1. 開会挨拶

8月8日にスタートしたこの勉強会。1か月の予定であったが、2か月強かかり、いよいよ大詰めを迎える段階となった。18日の市長との意見交換会が最後ではないが、区切りとなる。それに合わせた本日の発起人会である。菅原昭彦氏が急遽東京に出張となった。今日の会が延期できず菅原昭彦氏は欠席のまま開催する。

県議会で附帯決議としたということで正式な議会文書として畠山代議士からFAXが届いた。法的な拘束はないが、議会を無視にして知事も簡単には判断はできないということで決議したようである。知事賛成派の議員が多い中でこの附帯決議ができたのは評価されることと思われ、重みも感じる。しかし、これが出たので何かが保障されるわけではない。住民が納得したうえで建設に関して決めるという目的は達成されていない。一つの道具として使っていきたい。本日はチラシなどを決める大事な会であるが、欠席者もいる。その意向も聞いてはいるので、話し合っって仕上げに向かっっていきたい。

2. 議事

(1) 解ったことと課題の確認と発信方法について

前回の勉強会で整理をした。その後、振り返りシートで意見を募集。会の中では簡単に説明したので、資料についてくることができなかつた人もいたが、振り返りシート内で資料に関しての意見はなかつた。課題に関して意見はなかつた。7つの課題を踏まえて市長への質問を整理したので問題はないかと思われる。

発信方法について、ホームページでのダウンロードが可能。前回の参加者には配布している。それ以外の発信として、欲しい方は事務局に問い合わせさせていただく。これからの各浜の説明に備えてほしいとの思いから整理した資料である。

- ・大谷の場合はこれから勉強会を行うが、必要になった時に使う程度で良いのでは。押し付けになってはいけない。量が多いので膨大な知識になってしまう。
- ・県のやり方として突然決めて施工してしまうこともありえる。資料を求めるタイミングに合わせられず説明会が行われる可能性もある。
大きなくりの地区ごとに出前で説明会を開いて、自治会長など話の中心になる人に声をかけて集まっただくという案もあつたが、押し付けになるという恐れもある。
- ・これらの資料を渡したい相手は自治会長であると思うが、行政の説明会にくるような人であればこの会が主催する説明会にも来ると思う。

- ・今度配布されるチラシがきっかけになる。
- ・まだ行っていいのかわからないという人がいる。会に参加して公の場で言ってほしい人もいるが、会には参加できずに個人的に言っている人もいる。チラシを受け取って、各浜でアクションが起きるのであれば必要があれば、私たちは説明に赴くというスタンスであれば押しつけにもならない。必要に応じて今まで勉強した成果が役にたつのであれば説明に行きますとの伝え方が必要。
- ・各浜の説明会となり小さい浜ごとになると100か所くらいになり、大変である。地区を決めてあらかじめ行くと決めるのも良いが、説明会で3人しか来ないような場所では意味がなくなってしまう。
意味合いとしては、行政の説明会で以前と同じ内容になったり、今日集まったことで住民合意と捉えられるような状況がないように事前に説明会を行う。代替え案を出してほしい、景観に優しい防潮堤にしてほしいなどの意見を出せるような要望を、最終的に決まるかはわからないが出していく必要があるということを伝えていくべきである。
- ・県も市も次の説明会の日程が決まった時に働きかけができるように、どこの地区に事前に説明会をしてほしいという紙を作り配る。
- ・浜で組織が出来ているところは良いが、出来ていないところは言い出せない。
- ・浜の自治会長も被災したエリアにいない可能性もある。説明は聞いても人を集めるのはどうするのかとなる。
- ・行政の説明会の中でも個人で意見を言っているのだというきっかけになれば良い。そのためにも出前勉強会をやる必要性はある。
- ・御崎地区で話をしても勉強会に来てくれない人もいる。意見を言っているのかという人もいる。間違っても良いから意見を言っているのだと伝えていく必要がある。
- ・自分の家のこと、集団移転などがあり、海沿いに住んでいない人にとっては特にそこまで思いがっていない。

18日に来た人には、勉強会主催の説明会を行うといった内容を含めた資料を配る。予定はあらかじめしているが、要望が多いようであれば大きい地区で、出前で説明会を行うという形で進めていく。

資料はNPOを通して仮設住宅に配るなどの方法もできるのでは。若者など新聞で見ない人もいるので、店先に置くなど工夫できる。

行政の説明会と合わせて、勉強会主催の説明会の日程を含めたチラシでも良い。説明会を行う予定で要望をホームページに書いてもらう。要望の用紙も作成する。(用紙作成、担当：佐藤)

大きくは5か所、大島、鹿折、気仙沼、唐桑、本吉の地区で出前勉強会を行うという前提で進めていきたい。

(2) 市長さんへの質問事項

参考資料「市長さんへの質問事項」

【4.】

●今までの市として～

→今まで市として～

●2列目3列目は当日の質問によって出たものを加えた。

【5.】

●広村堤防のような案は県に提案出来ないか？

→最後の広村堤防の例は良い例ではない。削除

●複数の選択肢を提示してもらうことはお願い出来ないのか？

→これは質問でなく意見として提案すべき。削除

●湾口防波堤などを用いて、港の防潮堤の高さを変える提案など出来ないのか？

→場所によっては湾口防波堤などを用いて港の防潮堤の高さを変えるなど、複数の選択肢を提案させるべきでないか。

【11.】

●以前のものより新しく加えた質問である。

●磯部の資源の保全についてどのような対策をしていくのか？

→生態系の保全についてどのような対策をしていくのか？

●建設業の方から聞いたが、建設資材から人から土からコンクリートから、防潮堤にとられて他の部分はどうするのか？防潮堤優先になってしまうと比重がそちらにばかり重くなる。人が住むところが最初であるべきである。そこはどう考えるのか、質問に加えては。防潮堤が一気にできることで生活基盤の再建が遅くなる、コストが高くなる。

→最後の、「市域の防災整備計画について」に加える。

【10.】

●景観について。直接的に景観が財産だと伝えるべきでは。

→景観も財産だと思えば答えてもらうが、それでも命も大事。観光に関しての人の生活はどうするのか。そういう点も含めての質問であるので変更は必要ない。

- ・守るべきものは危機感、安心感を残すべきではなく危機感を抱かせる方が必要。
- ・形、数字にならないものは相手にされない。
- ・ブレないことは大切であるが、合意形成が出来ていない状態でブレない姿勢を通すのは独裁になってしまう。
- ・五十年から百数十年の津波対応と言っておきながら、五十年の寿命は短い。色々と矛盾していることはある。コンクリートの記述は加えるか。
- ・舞根地区に関して防潮堤は作らないと市長は姿勢を示している。1か所だけ作ってまわりに影響がでるといふ点についてはどうか。

●「市域の防災整備計画について」追加：コンクリートの耐久年数、メンテナンス費用、作り直す時の予算等、不透明な部分も多いが将来に対して負の遺産を残すことになる可能性があるものを作って良いのか？

●耐久年数は何年か？メンテナンス費用はいくらか？

- ・一つ一つの設問に対して一刀両断される可能性もある。全て答えは、どう合意形成をとるのか、ということに集約されてしまう。
- ・生態系の破壊、観光客の激減などによって町が壊れてしまった時のことについて。責任問題を問うのは曖昧である。賠償くらいにとどめて質問するのはどうか。しかし、事実問題として立証することは難しい。
- ・一般参加者の質問を受けるか。以前と同じ質問をしたりすると收拾がつかない。用意した質問だけでもおそらく2時間かかる。思いを代弁して聞いているので、用意された質問だけで良いのではないか。

【振り返りシートからの質問】

●岸壁の雨水側溝の件

→追加

●防潮堤の水門の作り方

→追加

●「時間切れ防潮堤はつukれない」はあり得るか。

→あり得ると思うが、公の場所で市長に言わせると良くない。質問しない。

【質問と思われる内容（議事録より）についての検討】

●港の修復と防潮堤の建設の関係。市管轄の小さな浜が直らないといった内容。

→14. 市として防潮堤に関しての今後スケジュールはどうなっているか？に集約する。

（3）チラシの校正と折り込みのタイミング

今回の市長との意見交換会の宣伝。まだ市や県の方の説明会の予定が出ていないので、裏の方にこれからこのようなことが行われるのでと参加を促す内容を記載した。地区ごとに勉強会主催の説明会を行う、という内容についてはもう少し後に別のチラシで作成し配布する。

本来は3Dの画像を背景に入れる予定であったが、うまくいかず臨場感がでないので却下した。文字でインパクトを出す。色は黒白。タイトルはショッキングなものであるが変更はなし。

【Q3変更】

- TP5メートルは鹿折から鹿浜。
- 防潮堤の高さはTPから地上までの高さを引いた高さになります、を削除。

【Q4変更】

- 底辺幅が70m（小泉海岸）45m（大谷海岸）の防潮堤もあります。
- また砂浜の上に施工される浜もあります。

【Q6変更】

- 「防潮堤があった場所での建設は、災害復旧事業ということで平成24年度中にほぼすべての」
→「もともと防潮堤があった場所もなかった場所も、平成24年度中にほぼすべての」

【下の囲いの部分 変更】

- 下記→以下
- ホームページのリンク先を太字にする。
- 文章内の順番を変更する。→修正担当：塚本

【見出しの部分 変更】

- 勉強会から学んだ防潮堤に関するQ&A

【最下部の黒い部分 変更】

- みんなで参加しましょうという内容にもう少し変更する。

【チラシ配布の方法について】

- 折り込み配布前日に新聞内の文面で告知をする。

(4) 18日のマスコミ対応

マスコミの良いところ撮りをされると、反対派の方が多いという撮られ方もされかねない。反対派が多い方が盛り上がるので。そのような撮られ方をすると県に対してのイメージを良くない。ただ、今回だけ規制、選別するとこれまで公開してきたものと差別になる。また、マスコミが入ることによって言えないことがあり、市長が素直に答えてくれなくなる可能性もある。あさって市長と打ち合わせをする際に、市長の意向を確認したい。

(5) その他

地区支援希望調査票の協議について。2件。時間も経っているので、本人たちに確認して直接先生方とコンタクトをとったか確認する。追跡調査した後、報告する。

今後決まっている予定としては、出前で各地区の説明会を実施。市、県の対応を見てからさらに集まりを開き協議する必要がある。

3. 閉会

以上